

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 463 号	氏名	越本 莉香
学位審査委員	主査	工藤 崇	
	副査	宮崎 泰司	
	副査	青柳 潔	
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価 本研究は、従来十分な検討が行われてこなかった在韓被爆者における精神健康状態を把握・検証しようとした物で、目的は十分に妥当である 2 研究手法に関する評価 在韓被爆者健康相談受信者 181 名を対象とした研究であり、被爆者と非被爆者を対比するために、同年代の韓国人 225 名を対照群として調査している。精神医学的健康状態を把握するため General Health Questionnaire 12 (GHQ-12)、抑うつ状態の評価として Korean version of short-form Geriatric Depression Scale (K-SGDS)、イベント（＝被爆体験）が精神に与えた影響の指標として Impact of Event Scale-Revised (IES-R)、バイアスの存在を検討するため The Minnesota Multiphasic Personality Inventory (MMPI) の K 尺度、といった標準的尺度による検証を行っており、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、GHQ-12 が 4 点以上（＝高得点者＝精神健康度が悪化していると考えられる）の割合が在韓被爆者では 48.1%，対照群では 22.2% と在韓被爆者で有意に高く、この割合は日本人被爆者に比べても著しく高いことが明らかとなった。高得点者群におけるロジスティック回帰分析では GHQ-12 の得点に与える影響が最も大きいものは被爆体験であることが明らかとなり、被爆後 60 年経た現在でも被爆体験が在韓被爆者の精神健康に大きな影響を与えており、十分なケアが必要とされていることが明らかとなった。 以上のように本論文は被爆者医療・精神衛生研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			